

【モニタリング項目 ID12 : 林床部の希少種・固有種の分布・生育状況】 関連

1. 希少種・固有種等の調査(生息状況モニタリング)

(1) 調査概要

H28年以降、国内希少種確認地点を中心とした新規モニタリング地点が増加したことをうけて、これまでのモニタリング地点(107地点)のうち、以下の条件を満たす地点(60地点程度、調査対象種は86種)を選抜し、優先的に調査することとした(図1)。調査方法は過年度と同様である。今年度は、そのうち17地点(調査対象種は39種)のモニタリングを実施した(下図:緑部分)。

(参考) モニタリング地点の選定基準(R2年度)

- ① 地生種5種以上
- ② 全地点のうち、出現回数が1地点のみの種の確認地点
- ③ 20個体以上の調査対象種を確認した地点

※場所・確認種等の条件が類似している地点は適宜選別している。

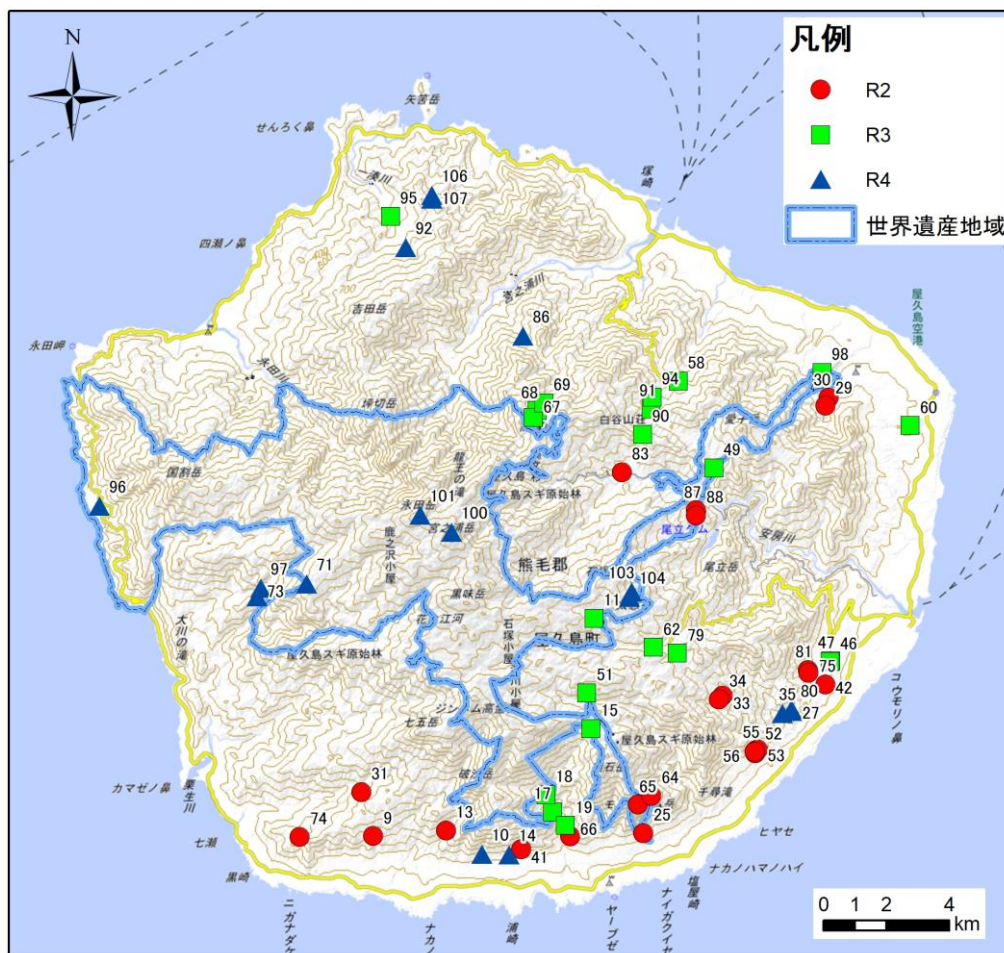


図1 モニタリングサイト

(2) 実施結果

① 種数の経年変化

- ・前回 (H28 もしくは H29) の結果と比較して、17 地点中 2 地点で地生種の種数が減少した。一方で、2 地点で地生種の種数が増加した。種数が消失した 2 地点の位置を図 4 に示す。
- ・種数が減少した地点の消失種は溪流沿いの岩場や、高標高域の岩場に生育しており、ヤクシカの立入が難しい場所である。消失した要因は不明である。
- ・着生種については、種数が減少した地点は無く、1 地点で種数が増加した。

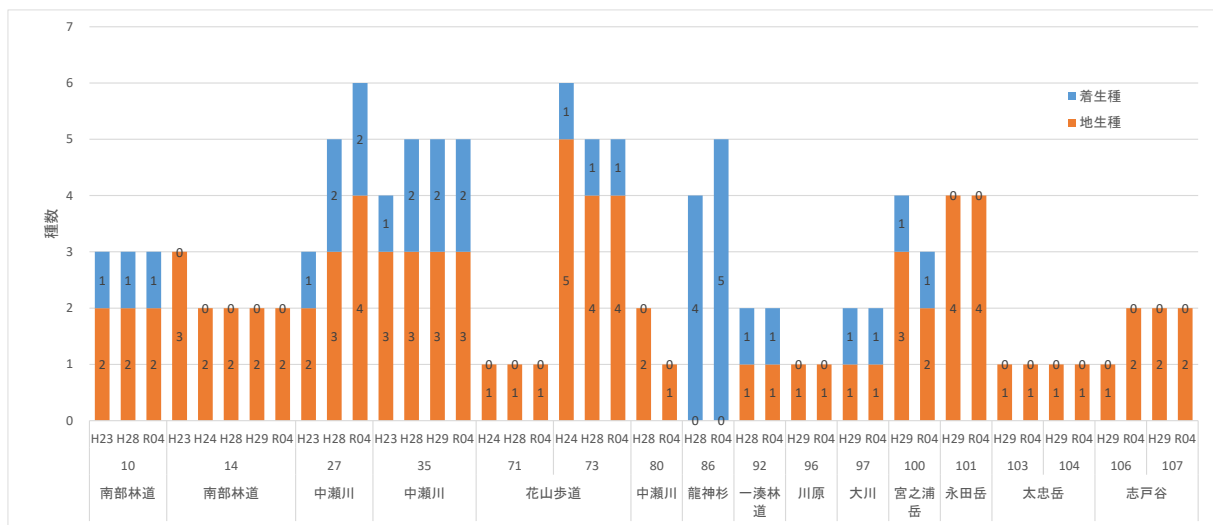


図 2 各地点の確認種数の経年変化

② 個体数の経年変化

- ・ H28 の結果と比較して、17 地点中 5 地点で地生種の個体数が減少した。一方で、8 地点で地生種の個体数が増加した。(図 4 参照)
- ・ 地点毎に、1 種につき半数以上の個体が消失したのは、No. 10、No. 35、No. 86 の 3 地点であった。
- ・ 個体数の大幅な減少に関しては、ヤクシカの採食の影響が難しい箇所などで見られ、大雨等の影響も考えられる。

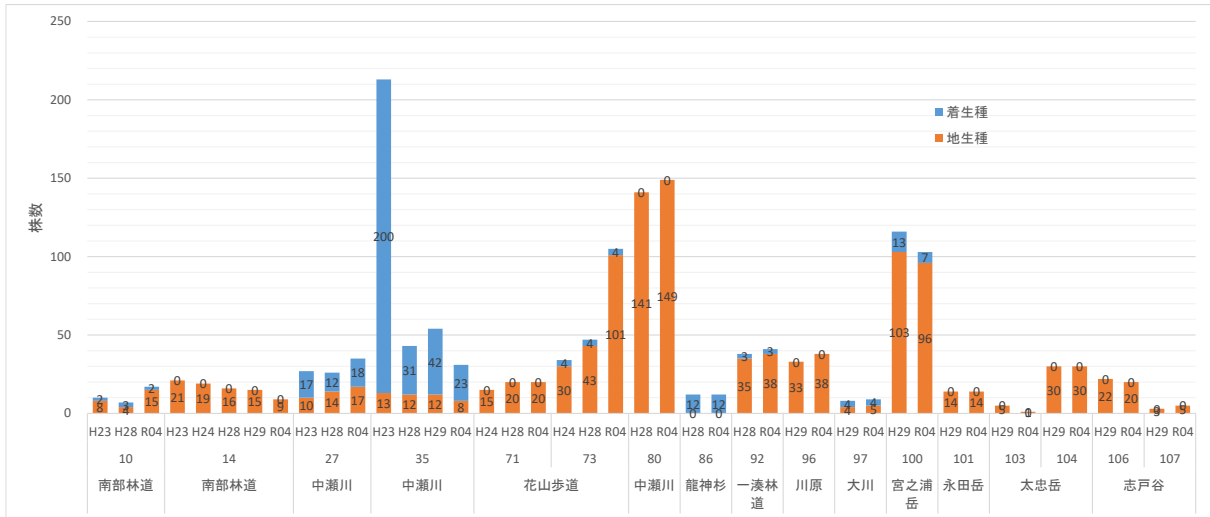


図 3 各地点の確認個体数の経年変化



個体数が大幅に減少した地点 (左 : H23、右 : H28)



図 4 前回 (H28 もしくは H29) から R4 にかけて種数もしくはある特定の種の個体数が減少した地点
 ※個体数は地点毎に、1 種につき半数以上の個体が消失した地点

- ・ ①、②の結果では、消失もしくは個体数が半数以上消失した種のうち、大型のラン科植物についてはヤクシカによる採食の影響がおよんでいる可能性がある。
- ・ 今後も継続してモニタリングを実施し、増減の要因を考察する必要がある。

③ 国内希少種の生育状況調査

- ・種の保存法に基づき国内希少野生動植物種に指定されている種の生育が確認されている調査区が 17 地点中、10 地点含まれていた。
- ・9 地点では、8 種の国内希少種（ヒモスギラン、ホソバコウシュンシダ、フササジラン、ホソバシケチシダ、アオイガワラビ、ヤクシマリンドウ、ハナヤマツルリンドウ、ヒメクリソラン）が確認され、過去の調査結果との比較から、確認地点数は 1 地点減少した。一方で、3 地点で個体数が減少した。減少したのはフササジラン（1 地点）、ヤクシマリンドウ（1 地点）、アオイガワラビ（1 地点）であった。